

～秋のピオトープ技術研修会 中・四国地区 の報告 ～

平成21年10月19日

中・四国地区 竹信正敏

■外来種植物の同定と侵入状況調査

10月17日、当協会中・四国地区が平成16年より‘馬洗川人工ワンド水辺再生プロジェクト’として取り組んでいる、広島県三次市の人工ワンドにおいて、「外来種の侵入状況調査とその対策などについて考える」研修会を開催しました。

午前は、先ず講師を務めていただいた協会理事でもあり環境省希少野生動植物種保存推薦員の関岡裕明理事の指導の下、全員でフィールドの踏査をおこない、調査対象区域の相観や植物の同定などについてレクチャーを受けた。

午後は、参加者が三班に分かれ、割り当てられたブロックで外来種（植物）の分布状況などの調査をおこなった。現地調査は約1時間で調査は終了し、その後班ごとに確認した特定外来種や要注意外来種の分布状況などについて調査結果の発表をおこない研修会を終えた。参加者からは、今後もこのような内容の研修会の開催を望む声もあがっていました。

なお、最終的な調査報告書は、野村公平、中川暢人両ピオトープアドバイザーが取りまとめをおこない、後日発表する予定です。また、国土交通省三次河川国道事務所にも報告書は提出いたします。

参加者数は、先日新たにピオトープアドバイザー認定講習会の受講した方々を含め15名でした。



① 講師の関岡理事より研修内容について説明



② 水辺植物の同定などに聞き入る参加者



③ 特定外来種（オオフサモ）について



④ ブロックごとの調査



⑤ 班ごとに調査結果を報告



⑥ 研修参加者の皆さん